

ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する



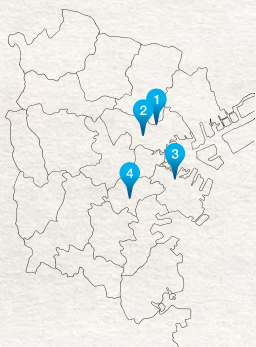
南区・恵比寿クリーニング（P. 03）

2019
Vol.

020

「特集 横浜の装い」





おしゃれをして
出かけよう

1
「装う」という
文化的な
営みのなかで

東急東横線の白楽駅から徒歩3分。装うことにまつわるさまざまな本を扱う古本屋「Tweed Books」がある。こだわりのツイードジャケットとヨウジヤマモトのボトムスで店頭立つのは、店主の細川克己さんだ。

元々本に携わる仕事をしていた細川さんは、2015年にこの古本屋を開店。「昔から洋服が大好き。服にまつわる本を扱えば、同じような仲間が集まるのではと思いま

した」と語る。お店には、地元の人だけでなく、デザイナーやテラーといったアパレル業界の人も訪れる。服飾関係だけでなく、詩集や音楽、文芸や哲学にまつわる本も扱う同店。「装いにまつわる歴史や背景を知ること、よりファッションを楽しむことができます。『ジャズメンは何でスーツを着ているんだろう?』とかね」。ファッションは建築や美術など他の領域との関係も深いという。

元々ははっきりとしたトラディショナルスタイルが大好きだったという細川さん。しかし、先進的なデザインのブランド・ヨウジ

ヤマモトを着こなすお客さんを見て「自分もこんなふうになんて重たい」と洋服の好みが変わり始めたのだそう。「そうやって自分の世界が変わる瞬間は、やっぱり本や音楽との出会い、そして人との対話がきっかけだったりするんですよ。美術館に行ったりするのも同じで、新しいものに出会うと、自分の幅も広がると思うんです」。

それは人とアートにも同じことが言えるのではないだろうか。他者との出会いを通して生まれる創造的な時間。「装う」という日常的行為には、アートとの相似点があるのかもしれない。

1



Tweed Books 港北区篠原台町4-6 サージュ白楽107



2

いつもの靴も とっておきの靴も

「靴は服飾品の中でも実用性で語られることが多いので、ファッションの側面から光が当たるのは嬉しいです」と語るのは、神奈川区・ハドソン靴店の二代目である村上壘さん。ここは靴修理の専門店だ。

市内外から持ち込まれる多くの靴の中には、他店で修理を断られたものや、この世に二つとない思い出の靴もある。まずは時間をかけて持ち主の話をよく聞くこと。そこからが修理の始まりだと言う。「履ければいいってわけじゃない。困っているポイントを把握したうえで、その靴の特徴や雰囲気が一番活かせる方法はなんだろうと探るのが仕事」。

持ち主のくせや骨格、筋肉のバランスによってもアプローチは異なってくる。そのため、既成の部品では間に合わないことも多い。「ほとんどが特注品ですね。こんなの作れませんかって。部材だけでなく糊、インクなどそれぞれのメーカーに助けられています」。

修理を通して靴に向き合い続けてきた村上さんは、今年パターンオーダー靴の製造にも挑戦する。9月には販売店HUDSONSをオープン予定。現在準備している製品は、ファッションと自転車を楽しむイベント『ツイードラン』に着想を得たサイクリングシューズだ。

3

手仕事が生み出した 港町のファッション

横浜発の着こなしとして1970年代に流行したハマトラ（横浜トラディショナル）。ブームを支えた中区・元町ショッピングストリートは、開港当時に外国人へ向けた商売を行う人々で形成された商店街だ。震災と空襲により大きな被害を受けたものの、駐留軍人とその家族へ向け、国際色豊かなまちとして復興した。

ハマトラブランドの一つとも言われるスタージュエリーも、元々は山手に住む外国人をターゲットにした宝飾店



として1946年に創業した。「専属の職人がいるというのが大きな特徴で、1960年代にはオリジナル商品も手掛けるようになりました」と語るのはマーケティング本部の小泉優仁さん。元町本店には歴代商品から歴史を振り返るミュージアムも併設されている。今も一点一点が職人による手作りだ。「特に、デザインを立体にする専属の原型師がいる宝飾店は、国内では他にないようです」。

見た目の美しさだけでなく、強度や着け心地の良さを追及するため、自社工房では試作が繰り返されている。「元町仲通りは他にも工房が並んでいて、クラフトマンシップストリートと呼ばれています。実は、ものづくりの文化が根付いているまちなんです」。

4

装いに 込められた 物語

クリーニング業発祥の地といわれている横浜。南区・恵比寿クリーニング代表のクリーニング師・沼能和男さんは、この道54年。平成17年には横浜マイスターに選定された。「幼いころ、大岡川では擦染の洗いをやっていたのを覚えています。このお店は父が開いたもので、高校生のときに母が亡くなってから一緒に働きました」。

そんな沼能さんは、「人との出会い」を大切にしている。「預かる洋服はお客様の大切なもの。実際にお客さんと話し、どんな仕上がりを望んでいるのかを考えます」。職業訓練の受け入れや、近隣の学校でアイロンの仕上げ実習も行う。「楽な道より厳しい道が良いと話している。そうすると後々、いいことがあるから」。長年クリーニング業を通して様々な出会いを経てきたからこそその言葉だ。

装うことには、人々の物語が詰まっているのかもしれない。



P.3左

ハドソン靴店

<https://www.hudsonkutsuten.com/>

P.3中

STAR JEWELRY PREMIUM WORKS SHOP
(スタージュエリーの自社工房)

<https://www.star-jewelry.com/>

P.3右

恵比寿クリーニング

南区大岡2-13-11

ヨコハマ
アートサイト
ラウンジ
Vol.20

場づくりと アートの営み



【会場】Koshu33ホール(横浜市中区)
 【ゲスト】荻野亮一(社会学研究者)、青木拓磨(音楽家/かたるベハッピーザ 代表)、渡邊梨恵子(一般社団法人 谷中のおかって 代表)
 【聞き手・進行】池田友実(ヨコハマアートサイト事務局/STスポット横浜)
 【主催】ヨコハマアートサイト事務局 【提携】国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 実行委員会
 【写真】前澤秀登 | Hideto Maezawa

5 アートと人を繋ぐ 色とりどりの「場」

今日、各地では数多くのアートワークショップが開催され、市民の芸術体験を支える場のひとつとして機能しています。それは鑑賞体験とは一味違ったアートの関わりとも言えるでしょう。今回は、人とアートの出会いをサポートする案内役としてのアーティストやファシリテーターの働きに注目し、「場づくり」という営みについて考えました。

ゲストは社会学研究者の荻野亮一さん、音楽家でかたるベハッピーザ代表の青木拓磨さん、一般社団法人谷中のおかって代表の渡邊梨恵子さんです。

荻野さんは大学生を対象とした演劇のワークショップについての事例を紹介しました。「あらかじめ場を計画するという発想ではなく、その場と集まったひとの個性を大切に、その都度いっしょに考えることを大切にしています」。

青木さんは2017年からの社会福祉法人かたるベ会のメンバーとの活動について「とにかく相手の話を聞いて、それをもとに曲を作ったり。でもだんだんかたるベ会の人たちとの出会いとか、そっちが楽しくなってきたらって」と笑います。

渡邊さんは4〜5歳の子どもたちを対象とした、子ども創作教室ぐるぐるミックスを展開しています。「主に地域の方、お巡りさんや定食屋の女将さんに来ていたりして、色々な特技を持っている大人の方の魅力が子どもたちに伝わるような仕組みを考えています」。

三人に共通するのはイベントに関わった人々との関係性をその場限りに終わらせないことを意識している点でした。会の後半では、参加者から場作りに関する質問もあがり、様々な意見交換がなされました。

6 外国文化と

昔ながらの文化が混ざる本牧で

立花隆之 所長
金原富子 副所長
(横浜市陶芸センター)

—立花 横浜は、市民のなかに陶芸が浸透している印象があります。明治期には「眞葛焼」が輸出され、欧米で人気を博すなど、文化交流の場となりました。土を用意してこねる…という陶芸は子ども頃の泥遊びを思い起こし、親しみやすさを持つてもらっているのかもしれない。

—金原 横浜市陶芸センターは昭和45年に青少年陶芸センターとして本牧市民公園のなかに設置されたのがはじまりです。平成5年には体験学習施設とし、市内外の方も気軽に陶芸が体験できる施設に変わりました。利用者は10代から80代まで、親子三世代で体験する方や、10数年通っている方もいますね。それだけ陶芸が日常に浸透しているということだと思います。ここで作った器を使い、三溪園の茶室で茶道のお点前をするという共催講座も行っていて、和服で参加する方も大勢いますね。



—立花 陶芸センターで作陶、三溪園で散策、中華街で食事をするなんて方もいるみたいです。

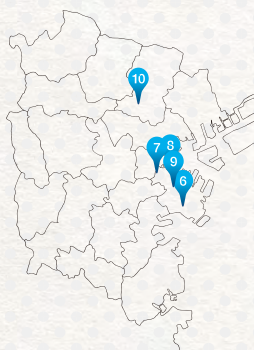
—金原 中区の色々な面を楽しめるということ海外の方にも好評です。本牧といえばかつて米軍キャンプで発展したアメリカ文化のイメージがあるかもしれませんが、アメリカ文化と伝統的な日本文化、その融合がまちの魅力と言えるかもしれません。

—立花 そうそう、「ここに通うのが好き」という話もよく聞きます。たとえば、陶芸センターのすぐ裏手には崖があるんですが、そこに地層の勉強をしにくる人もいます。ただ作るだけでなく地域の自然も楽しみながら作陶し、それを家で作ってみるという一連の体験ができる。また、本牧には陶芸教室はあまりないので、ここは作陶活動の発信地ともなっています。市内の学校の先生のための指導者講座を開催したり、事務所のなかに関連書籍を集めた陶芸ライブラリーを設置したりと、より学びが深められるような環境も整備しました。だから陶芸の窯の修理や陶芸技法についてよく相談がありますよ。

—金原 陶芸は生活と密に繋がるものです。自分で作った作品を使うと、日々が楽しくなるし、器自体に愛着も湧く。陶芸はハードルが高いと思う方もいらっしやるかもしれませんが、そんなことありませんよ。土をこねて、器を作って、それを使ってみる…誰でも気軽に始められるのが良いところですよ。それから、出来上がるまでに時間や手間がかかるのも面白いところですね。実際に焼くと偶然の色合いの発見もあるので、窯を開ける瞬間も陶芸の楽しみです。

事務局うろうろ日記

ヨコハマアートサイト事務局は、
今日も、横浜市内の
あっちこっちへうろうろしています。



7 4月14日(日)

「THE PUSH×ニシユキコものコンサート」を聴きに、伊勢佐木町のThe CAVEへ行く。THE PUSHは神奈川県内の地域活動支援施設・作業所から集まった精神障害のあるメンバーによるバンド。CMソングのように短くユーモラスな歌や、ポエトリリーディングのような場面など盛りだくさん。作曲家・ニシユキコさんが奏でる音がのびやかに会場を包み込む。



8 5月14日(火)

横浜ユーラシア文化館にて「装いの横浜チャイナタウン—華僑女性の服飾史」。旗袍(チーパオ:チャイナドレス)の実物がたくさんで見応えたっぷり。刺繍やボタン、パイピングなど、どれも細かいところまでこだわったつくりで、当時の持ち主がどんな風に着こなしていたのか想像するのが楽しい。中洋折衷なコーディネートは新鮮。



9 5月24日(金)

夏のような陽気。山手地区では山手ローズウィークを実施中とのことで、汗ばみながら坂道を上ると、鮮やかな薔薇がお出迎え。赤、ピンク、白、黄色。緑も濃くてさわやか。ブラフ18番館を訪れるとギャラリースペースで「アトリエたちの動物園」展を開催していた。全国の作家から寄せられた動物モチーフの作品たちがざらり。



10 6月4日(火)

初夏の日ざしの中、川べりを歩いて横浜ラポールへ。障害のあるアーティストによる「DIVERSITY IN THE ARTS」の公募巡回展には、各国のパンチのある作品が集まる。ひらがなの「た」の字だけで構成された作品を眺めたあと、「わ」の字のみによる作品も発見し、頭がぼんやりする。自分の名前を手のひらに書いて確認してしまう。



ヨコハマ アートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局
(STスポット横浜、横浜市文化観光局、
横浜市芸術文化振興財団)
〒220-0004 横浜市西区北幸
1-11-15 横浜STビル 208
(認定NPO法人STスポット横浜
地域連携事業部 内)
TEL:045-325-0410
FAX:045-325-0414
WEB: <https://y-artsite.org>
MAIL: office@y-artsite.org



@Y_Artsite



ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

季刊ヨコハマアートサイト Vol.020

発行 ヨコハマアートサイト事務局
編集 認定NPO法人
STスポット横浜
テキスト 小川智紀 池田友実
加納美海
デザイン 相澤事務所株式会社
撮影 小淵真希子
印刷・製本 株式会社 三島印刷
発行日 2019年06月28日

季刊誌についてのご意見・ご感想も
お待ちしております。

YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト おでかけMAP

横浜市の地域文化をサポートするヨコハマアートサイト2019参加活動の一覧です。
 情報には変更がある可能性があります。最新情報はウェブサイトをご覧ください。

横浜市の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

ヨコハマアートサイト2019
 選考委員会による選考を経て、
 今年度は29の活動が決定しました。

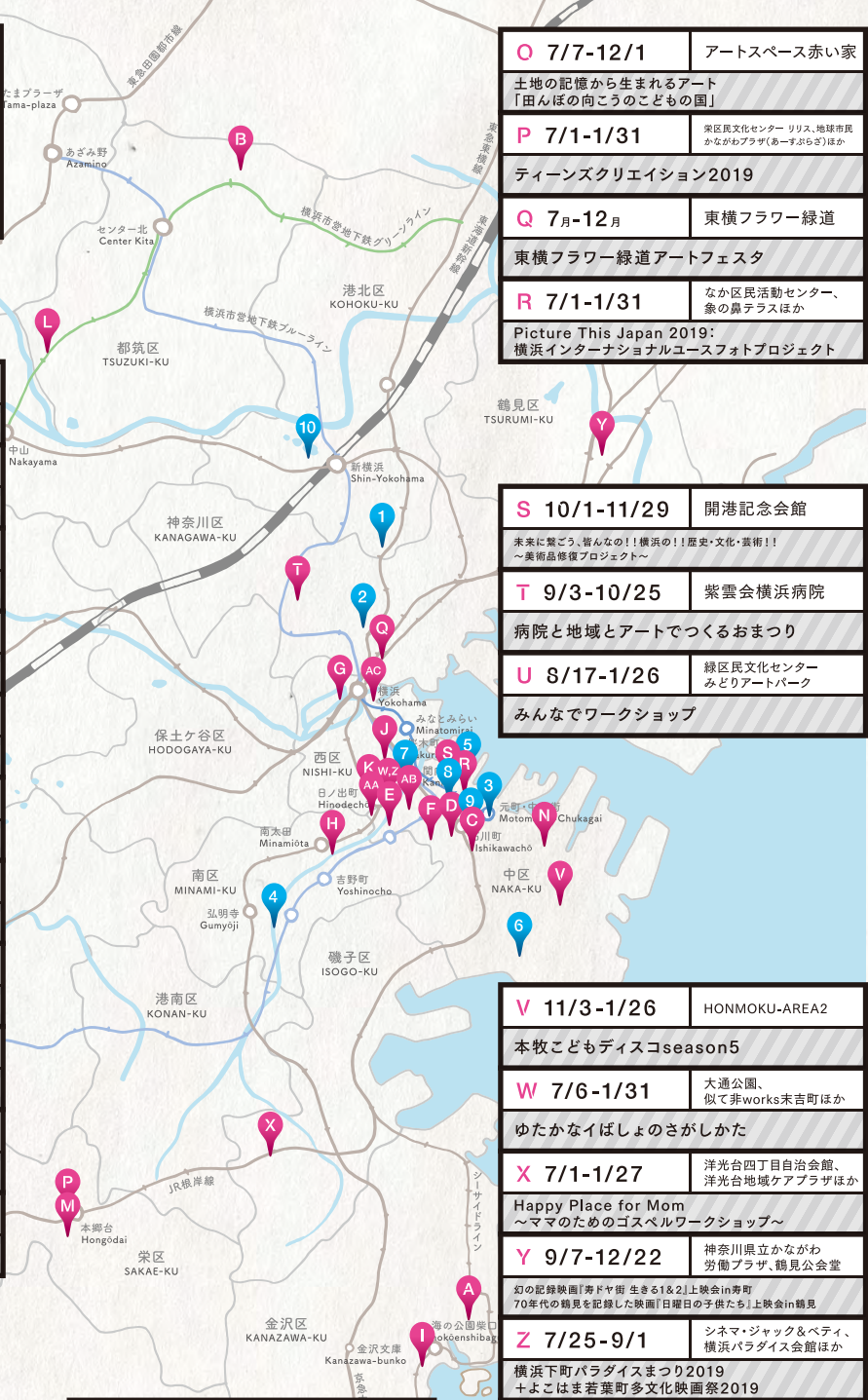
A 9/28-10/26	山陽印刷(株)内外ほか
会社まるごとギャラリー2019	
B 8/2-1/11	アーモンドホープセンター、 横浜美術大学ほか
アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト	
C 7/1-1/31	麦田町町内会館、 麦田地域ケアプラザほか
アート・フォー・コミュニティ〜若手アーティスト達が 人と地域コミュニティをつなぐための次のステップ事業〜	
D 9/22-11/10	ひらがな商店街、ひらがな 商店街ウエストアベニュー
石川町ストリートアートプロジェクト	
E 11/16-12/15	高架下スタジオ Site-Aギャラリー
ダンスと、音楽と、造形のワークショップ 〜豊かな当たり前にむけた取り組み〜	
F 7/2-1/28	レンタルスペース 「カドベヤ」
カドベヤ・オープンDAY 一つどお・かたろう・つながろう	
G 8/25	西公会堂
親子のためのアート&ライブイベント 「しあわせのはじまり」	
H 12/14-12/15	蒔田公園
大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと2019」	
I 7/22-10/14	海の公園、 アサバアートスクエア
第21回金沢文庫芸術祭	
J 7/11-12/10	神奈川県立青少年センター スタジオHIKARI
第20回手づくり紙芝居コンクール	
K 7/5-1/31	1の1スタジオC、 かいだん広場
黄金町BASE	

📍 ヨコハマアートサイト
2019参加活動

📍 本誌で取り上げた場所



あうたびに、あたらしい
 Find Your YOKOHAMA



L 9/1-12/31	カブカブ川和
ココロはずむアート展	
M 9/1-1/25	栄公会堂
さかえegaoフェスティバル	
N 7/15頃-1/31頃	新山下地域ケアプラザほか
こころに響く打楽器作っちゃお♪	

Q 7/7-12/1	アートスペース赤い家
土地の記憶から生まれるアート 「田んぼの向こうのこどもの国」	
P 7/1-1/31	栄区民文化センター リリス、地球市民 かながわプラザ(あーすぶらざ)ほか
ティーンズクリエイション2019	
Q 7月-12月	東横フラワー緑道
東横フラワー緑道アートフェスタ	
R 7/1-1/31	な中区民活動センター、 象の鼻テラスほか
Picture This Japan 2019: 横浜国際ナショナルユースフォトプロジェクト	

S 10/1-11/29	開港記念会館
未来に驚ごう、昔んなの!!横浜の!!歴史・文化・芸術!! 〜美術品修復プロジェクト〜	
T 9/3-10/25	紫雲会横浜病院
病院と地域とアートでつくるおまつり	
U 8/17-1/26	緑区民文化センター みどりアートパーク
みんなでワークショップ	

V 11/3-1/26	HONMOKU-AREA2
本牧子どもディスコseason5	
W 7/6-1/31	大通公園、 似て非works末吉町ほか
ゆたかないばしょのさがしかた	
X 7/1-1/27	洋光台四丁目自治会館、 洋光台地域ケアプラザほか
Happy Place for Mom 〜ママのためのコスプレワークショップ〜	
Y 9/7-12/22	神奈川県立かながわ 労働プラザ、鶴見公会堂
幻の記録映画「赤ドヤ街 生きる1&2」上映会 in 青町 70年代の鶴見を記録した映画「日曜日の子供たち」上映会 in 鶴見	
Z 7/25-9/1	シネマ・ジャック&ベティ、 横浜パラダイス会館ほか
横浜下町パラダイスマつり2019 +よこはま若葉町多文化映画祭2019	
AA 9/10-1/27	若葉町ウォーフ
若葉町ウォーフ「まちなかギャラリー」	
AB 7/1-1/31	シネマ・ジャック&ベティ、 横浜シネマリンほか
横浜を舞台にした映画プロジェクト 「ライフワークス」への製作、活動助成	
AC 7/1-1/31	西区福祉保健活動拠点 フクシア
LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA ART PROGRAM 2019 〜子どもの未来を切り開くクローバルアート活動〜	